

無形文化遺産

は私たちの生活の中に生きている様々な伝統や実践で、口承による表現、伝統芸能、社会的習慣や祭礼行事、伝統工芸技術、自然や万物に関する知識や慣習を含みます。世代を越えて受け継がれ、時代とともに変化しつつも、人々のアイデンティティのよりどころとなり、文化多様性の確保に重要な役割を果たしています。地域コミュニティの持続性やレジリエンスにも大きく貢献します。

全世界人口の約3分の2を占めるアジア太平洋地域は、無形文化遺産の宝庫です。

しかし、グローバル化や都市化にともなう価値観の変容、高齢化、過疎化、紛争、気候変動により激甚化する災害など、現代社会の抱える様々な課題により、数多くの無形文化遺産が消滅の危機にさらされており、その保護は緊急の課題です。



INFORMATION

IRCIウェブサイトをご覧ください

研究事業や最新の活動、公開イベントのお知らせなど、詳しい情報を掲載しています。事業報告書や会議録など、主要な出版物もダウンロードできます。ぜひ御利用ください。



IRCIウェブサイト

<https://www.irci.jp/jp/>



SNSでIRCIをフォローする



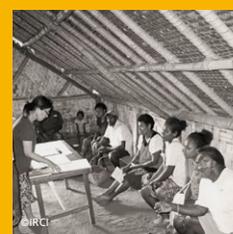
独立行政法人 国立文化財機構
アジア太平洋無形文化遺産研究センター (IRCI)
〒590-0802 大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 堺市博物館内
TEL (072) 275-8050 E-mail: irci@nich.go.jp

©IRCI, 2024

IRCI

International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region

独立行政法人 国立文化財機構
アジア太平洋無形文化遺産研究センター



沿革

アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)は、2009年10月の国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)総会で「ユネスコが賛助するアジア太平洋地域における無形文化遺産のための国際調査研究センターの日本国における設立承認」を受け、翌年8月に締結された日本政府とユネスコ間の協定に基づき、2011年10月に堺市に開所したユネスコカテゴリー2センター(ユネスコと協力してプログラムを実行する機関)です。

目的

- ユネスコの「無形文化遺産に関する条約(2003年条約)」のアジア太平洋地域における普及を推進
- 無形文化遺産保護の手法としての調査研究の推進及び調整

活動

アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究の中核的な存在として研究基盤づくりを進めるほか、現在の世界的課題に関連する事例研究を展開しています。ユネスコをはじめ、国内外の大学、研究所、博物館、地方自治体、コミュニティ関係者、政府およびNGOなどと連携し、調査研究を通じた無形文化遺産保護の充実と促進に努めています。



2つの重点領域を掲げて活動しています

1

無形文化遺産保護のための研究の促進

無形文化遺産保護に関連する研究情報を収集・公開し、研究者間の交流や学術的議論のための様々な機会を設け、研究の活性化と研究者間のネットワーク強化を図っています。

2

持続的かつレジリエントな社会構築のための無形文化遺産保護に関する研究

持続可能な開発や災害、気候変動への対応など、重要な国際的課題について、無形文化遺産の視点から調査研究し、持続可能な社会の構築やレジリエンスに貢献する無形文化遺産の側面を提示します。

研究情報収集

無形文化遺産とその保護に関する研究情報は、保護の現状や課題を把握する上で不可欠です。専門家や研究機関の協力を得て、アジア太平洋地域を対象とした研究情報を体系的に収集しながら、研究動向や課題を分析しています。

研究データベース

収集した文献、専門家、関連機関などの研究情報は、IRCI研究データベースとして公開しています。アジア太平洋各地の言語による研究情報を数多く収録しており、英語要旨を付けることで国際的な認知向上と情報共有を促進しています。

研究フォーラム

無形文化遺産の保護に携わる研究者や研究機関の交流と議論、情報共有の場として、**アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラム**を立ち上げ、研究セミナーや国際会議、若手研究者向けプログラムなど、地域共通のニーズや関心を踏まえたイベントを開催しています。

研究フォーラムのFacebookグループ
<https://www.facebook.com/groups/asiapacificresearchforum>



実践的な事例研究

アジア太平洋地域の大学、研究所、博物館、NGOなどと協力して、教育やまちづくり・地域づくりを通じた持続可能な開発目標(SDGs)への貢献、無形文化遺産と災害リスクマネジメント、気候変動への対応など、様々な事例研究を実施しています。地域に深く根差した無形文化遺産には、自然環境や生態系を持続的に利用するための様々な知識や実践があり、持続性やレジリエンスに積極的な役割を果たします。事例研究を通じて、こうした無形文化遺産のコミュニティ中心の保護と次世代への継承に貢献します。

知見の共有と議論

国際会議、ワークショップ、シンポジウムなどを通じて、事例研究で得られた知見を共有しつつ、様々な課題への対応策や有効な無形文化遺産保護手法について議論します。ガイドラインや提言の作成など活用可能な成果の公開に努めるとともに、持続性やレジリエンスに貢献する無形文化遺産の役割について、一般社会の理解を促します。